

#### 4 週間目

「ほーら、弟くん、お姉ちゃんよ♡」

「んふ、おてて振って、しっかりご挨拶できるのね♡ エラいわ♡ もうお姉ちゃんのマミルクで暮らしはじめて、四週間目なのねえ」

「洗脳もすっかり進んじやって、正義の味方さんだったことなんて、信じられないわあ」

「弟くんがとっても素直にいう事効いてくれてお姉ちゃんも嬉しいよ」

「はい、今日は良いものを持ってきたの」

「これが何か、わかるわよね、うふふ、ガラガラよお♡ バブバブ洗脳怪人のお姉ちゃんの洗脳ガラガラ、とっても素敵でしょ？ このガラガラの音を聞きながら、せーし、びゅっびゅしたら、もーっと、あなたのこと、いい子ちゃんに、洗脳できちゃうのよお。もう、二度と正義の味方だったことなんて、思いだせなくなっちゃう。アナタはお姉ちゃんだけの弟くんになっちゃうの♡」

「んふふ、お姉ちゃんがガラガラで鳴らしながら、真っ白なお汁を、アナタから沢山お搾りしながら、いい子に変えてあげるわね」

「ああ、楽しみだわ♡」

「じゃ、お洋服、お姉ちゃんが脱ぎ脱ぎさせてあげるわねえ♪」

「んしょ、んしょっと、ふふ、お洋服脱ぐのも上手ね。裸になったら、お行儀良く、待っていてね」

「お姉ちゃんも、んんッ、んんんッ♡」

「はあい、アナタの大好きなお姉ちゃんのおっぱいですよー♡ ああ、お姉ちゃんのおっぱい見ただけでだらしな顔でおちんちん勃起させてとってもえらいえらい。ほら、ガラガラでもっといい子になりましょうねー♡」

「それじゃあ、アナタのおちんちんを、すりすりって、パイズリご奉仕してあげる。ガラガラも一緒に鳴らしてあげるからいっぱい洗脳して上げられるわよ」

「あふう、大きな胸で、んしょっ、おちんちんを挟みこんで、むーにゅむにゅ、むにゅにゅ♡ ガラガラガラ♡ おっぱいでシコシコされて、幸せそうな顔。イイコイイコ。もっとおちんちん固くして気持ちよくなりましょうねー」

「むにゅにゅ、むにゅ♡」

「このそり返った感じ、たまらなくエッチよ♡ アナタもすっかりいい子になったからご褒美におちんちんだけ大人チンポのガチガチにしてあげたの。うれしいでちゅよねー、お姉ちゃんもとっても嬉しいよ♡」

「ほーら、ガラガラを鳴らしながら、おっぱいで、おちんちんをばふばふ、すりすり♡」  
「すりりッ、すりすりすり♡」

「んふふ、おっぱいの柔らかいのが、先っぽから、竿全体に絡んですっごく気持ちいいでしょ？ くふふ♡」

「気持ちいいのは、やっぱりオチンポの先の亀さんみたいねえ。じゃあ、アナタの亀さんをパイズリで重点的に、責めてあげる♡」

「すりすりすりりッ♡ すりりッ♡」

「んッ、完全にとろけた顔でイイコイイコ。もっと、とろけてイイコになりましょうねー」

「ガラガラ、すりすり、ガラガラ、すりすり」

「お姉ちゃん以外のことはな〜んにも考えないイイコでえらいえらい」

「このまま硬く張ったエラを、いっぱいすりすり、するわねえ」

「ん、ん、んっ♡」

「おっぱいを動かすたびに、洗脳ガラガラの音を聞かすたびにおちんちんから頭の中までいじられてとろけ顔でびくびくしてしてるのとってもカワイイ。先っぽの割れ目から、お汁だらだら、滲ませて♡ すっごくエッチな匂い♡」

「いいのよ、せーし出したくなったらびゅっびゅっってお姉ちゃんの胸の中に射精しても、もっと気持ちいいところまで我慢してお姉ちゃんの顔に届くまですっごい射精しても、どっちでもいいの。がんばれ、がんばれ♡ ほらほら、おっぱいでふにふに、ガラガラの洗脳でとろとろ、すりすり、ガラガラ、ふにふに、ガラガラ♡」

「いい子な弟くんにはお姉ちゃんがいっぱいいっぱい気持ちよく洗脳してあげる♡ そういや、アナタが昔こんなふうに抱き合って寝たことあったね。ふふふ、もちろんあの頃は私は常識があったから普通に寝ただけだったけど…」

「ん♡」

「ちっさな頃、こわ〜いお話を聞いたりして、眠れなくなったとき、お姉ちゃんのお布団の中に潜りこんできたもホントはこんなことしたかったんじゃない？」

「はあ、はあ、はあっ♡」

「はじめは怖い怖いって言って、お姉ちゃんの腰に、ぎゅ〜って、しがみついてるんだけど…少し落ち着いてきたら、そのまま、お姉ちゃんのお胸に手を伸ばしてきて、おっぱいの間にこぼって顔を埋めちゃって…」

「んふふ、お姉ちゃんのおっぱいを、一晩中、揉みもみしちゃって…フー、ンフー♡…」

「あのときは、お姉ちゃん、母性本能をすっごく刺激されたのよ。可愛いって思ったアナタのこと、ますます可愛くなっちゃって、自分を押さえるのが、大変だったのよお、んふふ♡ あんツ、もう要らない昔のことよりも今のおちんちんよね。お猿さんみたいに腰を振って、赤ちゃんみたいに乳首にむしゃぶりついてとってもいい子」

「もう、常識とか周りとか立場とか気にしないでいいの、お姉ちゃんの体で好きなように気持ちよくなっているのよ。いい子な弟くんにはもっとお姉ちゃんが気持ちいいこととしてあげる♡」

「おっぱいをタマタマの入った袋に、ぎゅううって押しあてて、くすぐるみたいに、擦ってあげるわよ。んふ、タマタマをこすこす、こすこす♡」

「こそばゆくて、結構、感じちゃうでしょ。忘れてるかもしれないけど、アナタ、小さな頃から、お姉ちゃんに玉袋を触られたり、揉みもみされるの大好きだったのよ」

「んふ、だから、ほら、こすこす、こすこす♡ あん、ますます硬くなって、おちんちん、ぎゅんって反っちゃって。うふ、凶悪シヨタチンポさんね♡」

「まだまだ速く、激しくしちゃうわねえ。こすこす♡」

「どう？ お姉ちゃんのおっぱいは？ 先っぽからお汁が滲んで、お顔も切なそう♡ こそすこす♡ 頭の中、お姉ちゃんのおっぱいと気持ちいいおちんちんのことだけになっているのに頑張ってるでちゅね。いいこいいこ。とってもいいこでちゅよ♡」

「ハッ、ハァ♡ おちんちんの先っぽが膨らんで出すの？ 射精しちゃうんでちゅか？」

「お姉ちゃんの身体全体を使って、おちんちんに、大きくパイズリしてあげる」

「んしょっ、ほら大きく膨らんだおっぱいを勃起チンポに絡めて、んしょっ、んしょっ♡  
ガラガラ♡ あは♡ お姉ちゃんもドキドキが止まらなくなってミルク止まらない」

「おちんちんにかかってぬるぬるチンポ気持ちいいよね。お姉ちゃんのミルクだいしゅきでちゅからね♡ ほらほらほらあ、むにむにでいっぱいシコシコして、おっぱいの柔らかいのが吸いついて、オチンポの敏感なところ、思い切り擦りたてて、今にも暴発しちゃいそうよねえ♡」

「にゅるにゅる、ガラガラ♡」

「んふふ、シヨタおちんちんがビクビク震えて、中からどろどろの濃いせーし、いゝっぱい射精しちゃいましょうね」

「にゅるにゅるッ♡ ガラガラ♡」

「狭いオチンポの管が内から、ぐいぐいって、押し上げられて、もう今にも、びゅぐびゅぐびゅぐうーッ、って。アナタのミルクせーえき射精ちましょうね♡」

「ほらあ、出して♡」

「お姉ちゃんのミルクおっぱいで、気持ち良く、お射精でちゅよ♡ 熱々のトロトロの弟くんのザーメン。いい子でえっちなザーメンミルク♡ お姉ちゃんにびゅっびゅしましゅうね♡」

「出して、出してえ、お姉ちゃんのパイズリで♡」

「洗脳されながら、いい子になりながら、お姉ちゃんのために真っ白いどろどろザーメンいっぱい射精でちゅよー♡」

「びゅっびゅっびゅ〜♡ びゅるる〜♡」

「びゅっるうう〜♡」

「あんツ、で、出てる、おちんちんの先から、いっぱい精液出して、んう、んぶツ、んぶぶうーツ♡ 白くて、トロトロした、熱いの…顔にいっぱい掛かって、あ、あはあ、あはああーツ、お姉ちゃん、弟くんザーメン、顔にぶっ掛け射精されて、き、気も良くなっひゃって…」

「あ、あーツ、ああーツ♡♡ はあ、はあ♡…ん♡」

「とっても濃くてえっちでお姉ちゃんもイっちゃった」

「んちゅ♡ 頑張りましたねー、えらいえらい。とってもいい子になってくれてお姉ちゃんうれしい。んふ、満足そうな顔。とろけて全部お姉ちゃんに出し切ってなんにも考えてないとってもいい子な顔。ミルク全部出しちゃったらミルクをあげないといけないでちゅね」

「ほら、アナタの大好きなお姉ちゃんのおっぱい。洗脳ミルクとセーしまみれで美味しそうでしょ？ ん、ちゅぱっ♡」

「むしゃぶりついて、ミルクを吸ってまたおちんちんをおつきしましょうね。あん、あんツ、そうよ♡ 強く♡ ぢゅるるる、ぢゅるうーツ♡ って、吸ってとってもえらいえらいでちゅよ」

「あらあら、もうおちんちんおおきくしちゃってますねー♡」

「んあ、んああ♡……じゃあ、おっぱい吸ってもらってる間、お姉ちゃんのアマアま手コキで、いっぱい出しようね……お姉ちゃんは弟くんのご全部知ってるのよ」

「カリの敏感なところをお姉ちゃんの指で、しゅっしゅっしゅ♡　ってされるのが大好きなところとか」

「んふ、いい声、あまーい声でとってもカワイイわ」

「もっとお姉ちゃんに聞かせて、んふ、しゅしゅしゅ♡」

「先っぽビクついて、今出したばかりなのに、もうカチカチ。えらいえらい。とってもいい子な弟くんにはご褒美にもっとしこしこしてあげる」

「好きなときに射精しちゃっていいいでちゅよー」

「ほら、しゅしゅしゅしゅしゅ♡」

「だんだん速くしていくわね♡」

「んふ、おちんちんから、先走りのお汁がだらだら溢れて、しゅしゅしゅしゅしゅ♡　んふ、止まらないわねえ♡　出しちゃうの？　いいわ、いっぱい頑張ったもんね」

「お姉ちゃんのおててに、ほらあ、出して♡　出してえ♡」

「できたばかりの新鮮な弟ザーメン、いっっぱいどっぴゅどっぴゅっれえ♡」

「どっぴゅらせてえー♡♡　それえー♡♡」

「あんんッ、また濃いいおせーし、いっぱい噴き上がって、お姉ちゃんのおてての中でぶっぴゅぶっぴゅ可愛く射精してる♡　あはあ、お姉ちゃんのために腰をへこへこ浮かせてこんなに射精してくれたの嬉しい」

「ちゅっば〜 お姉ちゃんのミルクいっぱい飲んでもっといっぱい気持ちよくなっているのよ。もう、それだけでいいの。お姉ちゃんの体で、お姉ちゃんのことだけ感じていいコでいようね」

「それじゃあご褒美に、お姉ちゃんのなが〜い舌で、身体中、舐めなめしてあげるわね♡ お姉ちゃんの改造してもらった舌、にゆるにゆるざらざらして、アナタも大好きよね」

「んれろ、れろお、それじゃあ、最初はおちんちんから♡ もちろんガラガラも振りふりして、お姉ちゃんに舐められながら、いい子ちゃんになってね♡」

「先っぽにくるるって、巻きつけて、少し締めつけながら、れろ、れろろ、んじゅる、れろろろお♡ れろろ、れろお、たまたまのあたりも、んじゅれろ、れろろお♡」

「あふ、あふう、じゅぶれろ、れろお、また勃起して、これ以上舐めたら、お射精確実ねえ、んふふ、じゃあ、いいコな弟くんにはお尻をたくさん舐めてあげるわね」

「んふ、この間で、だいぶ後ろのほうも良くなってきてるわよね」

「いいのよお尻で感じてくれるのとおねちゃん嬉しいわ。ん、じゅる、んじゅぶ、じゅぶぶ、ほら、前よりもお尻の奥に、舌がずぶぶつれえ、入っれいってるわよお♡」

「前は入り口を広げたから、今日はもっと気持ちよくなれる前立腺の後ろを、んじゅるる、れろお、れろろ、れろるうう♡」

「いっぱいコスコスしてあげる♡ んぶう、んううう、いいでしょ？ いいでしょ？ 声も我慢せずに気持ちよくあえいいいのよ。精液がかってに溢れて、先っぽから、だらだらっれ、ところてん射精、しひゃってるの、わかるかしら、じゅぶじゅぶ、んじゅる♡」

「お姉ちゃん好みのとってもいいコに育ってうれしい。あへ声出しながら、視線が虚ろになっちゃってるもの」

「んふ、前立腺責めからのお射精、気持ち良かったでしょう？」

「まあまあ、体がミルクと精液といろんな体液でぐちゃぐちゃ。大丈夫、お姉ちゃんがきれいにしてあげるね。じゅるり。おてての指をしろ、れろろお、れるれろお♡」

「んふ、次は足の指もれる、れろろ、れるれろッ♡」

「我慢しないでいいのよ。カワイイ喘ぎ声でもどろっどろの精液でも遠慮なく出しちゃって。全部お姉ちゃんがきれいにしてあげる。ほら、おへそも、れろ、れろろお、んちゅれろッ♡」

「身体中、お姉ちゃんが舐めていないところがないぐらい、れろれろしてあげる♡ もう、中も外もとろとろね。でも、まだ残っているとこがあるよね」

「ふー、ここ」

「じゃあ、お待ちかねの、お耳ちゅばちゅばよ♡」

「まずは左のお耳の穴を、なが〜い舌で奥まで♡」

「ちゅばッ、んちゅぶ、ちゅぶちゅば、んちゅるるッ、アナタの蕩けたお顔、可愛い♡」

「いいのよ、もっと、お姉ちゃんの耳舐めに集中して、たくさん感じて♡ そのままペロを、どんどん奥まで、入れちゃうわね♡」

「ちゅぶ、ちゅぶぶッ、んちゅぶう、この奥までなめなめしてあげるの大好きだよね。んれろ、じゅるる、ちゅぶ、ちゅばちゅばッ♡」

「このまま右の耳も、奥まで♡」

「ちゅばちゅぶ、んじゅば、ちゅうう、んちゅるる♡ ちゅぶちゅぶッ、んちゅぶッ、んちゅばちゅぶ♡ 怪人さんのなが〜い舌で、奥の奥まれえ、きれいに真っ白にしてあげる」

「ぢゅぶ、んぢゅぶッ、んぢゅぶぶうーッ♡」

「まだまだ潜っていくわ♡　ちゅばッ、じゅる、んじゅる、ちゅばちゅば♡　お耳の穴がお姉ちゃんの舌の形に変わっちゃうぐらい、いっぱいお耳の底までペロでピストンしてあげる♡」

「ぢゅぶ、ぢゅばじゅぶ、ぢゅぶぢゅぶ♡」

「はふ、はふう、お耳を舌でいっぱい貫かれて、とっても気持ち良くなったでしょ？　んふ、声も出せないぐらい、アへとろけひゃってるみたいね♡　いっぱい気持ち良くなれたご褒美に、お姉ちゃんとペロチューしましょう♡」

「んちゅぶ、ちゅ、んちゅう♡」

「ほらあ、喉の奥まで、お姉ちゃんのペロれえ、じゅぶじゅぶして、弟くんのお口マンコ、犯してあげる♡　んぢゅぼ、ぢゅぼ、じゅぼじゅぼ、んぢゅぼ♡　あふ、んふ……　こうやって、可愛がるほどに、お姉ちゃん、どんどんアナタに夢中になっちゃう♡」

「お姉ちゃんのことしか考えられないとってもいいコになってくれてほんとに嬉しいわさ、お姉ちゃんのおっぱい、見て。興奮して、ミルクがいっぱい貯まってるの♡」

「このエッチな洗脳ミルク、アナタに飲んでほしいの♡　んふう、アナタに跨がって、あはあ、あはあ……　おちんちん、中に全部、ずるるって、入っちゃったあ♡」

「このままお姉ちゃんの中に好きなだけ出して、おっぱいミルク、たくさん召し上がれ、ほうら、どうぞお♡　アナタの大好きなおっぱいプレスよ。おっぱいで窒息するほど押しつぶされて、ミルクで溺れるの大好きだもんね。んっふ♡　必死におっぱいにしゃぶりついてミルクおねだりしてるのわかるわ。とってもいいこ」

「ミルク飲むたびにおちんちんビクビクさせてえらいわねー。もう、おっぱいとおちんちんのことだけしか頭にないのね。とってもいいコ。いいのよ、腰を情けなくピストンさせるだけでもアナタはお姉ちゃんの弟なんだから、それでいいの」

「お姉ちゃんのところあまーいミルクをいっぱい飲んで、お姉ちゃんの中にどろどろのミルク精液びゅっびゅって吐き出すことだけ考えていればいいの」

「ほらもっと飲んで、飲んで」

「頭の中まで真っ白になっていいの。お姉ちゃんの大好きなアナタのせーしいっぱいオマシコに注いで気持ちよくなっていいの。勃起チンポおっ立ててカワイイ喘ぎ声上げてセックスしよ。ずっとずっと、ここで交わってるだけで幸せでしょ？」

「出して、出して、空っぽになるまでせーし射精するの。とってもいいコでえらいえらい。なくなったら、お姉ちゃんのミルクでお腹いっぱいになるまで補充して、おちんちんから精液出すだけの考えていればいいの。まだまだ、出せるよね。とってもえらいわ。アナタはお姉ちゃんの可愛くていい子で大切な弟」

「あは、あはあ♡ おちんぽ突く速さが早くなった♡」

「必死になって腰振ってお姉ちゃんも嬉しい。いっぱいいっぱいアナタの精液頂戴。ん♡ 3回連続でもとっても熱くて濃いザーメン。いいコでちゅねー。とってもいいコ。はあ、はあ♡……んあ♡……ふう、んっ……またいっぱいミルクほしいのね。いいよ。いっぱい飲んでいっぱい出して」

「もうすっかり、うつろでお姉ちゃんのことしか見えていないきれいな目になっちゃね。これでアナタはほんとうの弟くん。ふふふ。正義の味方なんてもう思い出しもしないの。幸せでしょ。ずっとずっと、お姉ちゃんがそばにいてあげる」

「今日はお疲れ様、ゆっくり休んでね♡ んふふっ♡」

## エピソード

「あら、起きちゃった？ ふふ、かわいい。はい、お姉ちゃんのおっぱいよ。アナタの大好きなあまーいところの洗脳ミルク。んふうっ、いつものようにいっぱい飲んで嫌なこと全部忘れてお姉ちゃんと暮らしていきましよう」

「いいの、今みたいにアナタは何にも考えなくて。世界の平和も、正義の味方も、もうぜーんぶ関係ないの。赤ちゃんみたいにミルクを飲んで、あは、おちんちんがおっきしたらお姉ちゃんですいて、とろけるように眠りましよう」

「今日は、お手々がいい？ それともお口？ あー、アナタの大好きなおっぱいで挟んでしゅっしゅしてあげようか」

「ずっと、ずーっと、お姉ちゃんと一緒にいようね」